

平成 26 年度第 1 回 福岡県特定歴史公文書利用審査会

平成 26 年度第 1 回 福岡県自治振興組合特定歴史公文書利用審査会

日 時 平成 27 年 2 月 10 日 (火)
10 時から

場 所 福岡共同公文書館 2 階会議室

1 開会
館長挨拶

2 会長選出等

会長挨拶

3 議事

① 平成 25 年度、平成 26 年度事業実績について

② その他

4 その他

5 閉会

福岡県特定歴史公文書利用審査会委員名簿

福岡県自治振興組合特定歴史公文書利用審査会委員名簿

氏 名	現 職 名
しんや 新谷 やすあき 恭明	九州大学基幹教育院教授
せいいち 勢一 ともこ 智子	西南学院大学法学部教授
おおの 大野 けいじゅ 慶樹	弁護士

【平成26年10月19日現在】

平成 25 年度・平成 26 年度福岡共同公文書館事業報告

1 受入・整理・保存事業

(以降、平成 25 年度は年度末現在、平成 26 年度は、12 月 31 日現在の数値)

(1) 受入文書数 (単位：冊)

年度	区分	搬入済	整理中	返還・廃棄	配架済
25	県文書	17,205	8,191	0	11,769
	市町村文書	6,235	3,127	1,600	9,266
	計	23,441	11,318	1,600	21,035
年度	区分	搬入済	整理中	返還・廃棄	配架済
26	県文書	4,623	4,822	0	8,042
	市町村文書	3,185	2,884	1,194	2,234
	計	7,858	7,706	1,194	10,276

2 利用に関する事業

(1) 閲覧利用事業

ア 来館状況

年度	開館日数	来館者数	展示室見学者数	閲覧室利用者数	来館者数平均
25	289 日	2,749 人	2,322 人	1,403 人	10 (人／日)
26	220 日	2,243 人	1,946 人	797 人	10 (人／日)

イ 特定歴史公文書利用状況

年度	一般利用				行政利用				利用請求計			
	県		市町村		県		市町村		県		市町村	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
25	13	122	7	73	1	3	17	441	14	125	24	514
26	7	20	2	8	5	73	12	117	12	93	14	125

ウ 研修室・会議室利用状況

年度	研修室					会議室				
	一般利用	視察対応	自主事業	その他	合計	一般利用	視察対応	自主事業	その他	合計
25	6	14	7	0	23	6	30	9	0	44
26	8	7	3	0	18	5	13	3	1	22

エ レファレンスサービスの状況

年度	来 館	電 話	電子メール	合 計
25	42	31	7	80
26	19	45	8	72

(2-1) 平成 25 年度 利用促進事業

ア 当館 1 階展示室では以下のとおり、様々なテーマを取上げ、展示会を開催しました。

種 別	タイトル	期 間	見学者数
企画展	公文書にみる福岡 140 年のあゆみ ～福岡県の誕生と市町村合併～	平成 25 年 4 月 1 日～6 月 23 日	272 人
企画展	福岡県の石炭産業～山本作兵衛作 品とともに～	平成 25 年 7 月 2 日～9 月 29 日	1,112 人
常設展	公文書にみる福岡 140 年のあゆみ ～福岡県の誕生と市町村合併～	平成 25 年 10 月 8 日～12 月 23 日	396 人
企画展	時代とともに発展した福岡県の交 通 ～鉄道軌跡を中心に～	平成 26 年 1 月 7 日～3 月 23 日	537 人

イ 講演会・講座の開催状況

区分	期日	テーマ	講師	受講 者数
講演 会	平成 25 年 7 月 27 日 (土)	「産炭地筑豊～近代化の諸 相」	田川市石炭・歴史博物館館 長 安蘇 龍生 氏	66 人
講座	平成 25 年 8 月 21 日 (水)	「探ろう！学ぼう！おもしろ 公文書館探検隊！」	福岡共同公文書館 堤エリ、杉谷紋羽、障子復 美	59 人
講座	平成 25 年 9 月 7 日 (土)	「石炭が織成す歴史～福岡 県の近代～」	九州歴史資料館 学芸員 渡部 邦昭 氏	32 人
講座	平成 26 年 2 月 15 日 (土)	「和綴じ講座」	福岡女子短期大学 准教授 倉本 優子 氏	10 人
講座	平成 26 年 2 月 19 日 (水)	「公文書館講座」	福岡共同公文書館 副館長 佐藤 史文	10 人

ウ 研修会の開催状況

市町村文書事務担当課長会議を独立行政法人 国立公文書館と共催で行い、公文書
管理制度の概要や国立公文書館の取組に関する研修を行いました。

テーマ：「国立公文書館の取組について（公文書管理制度を踏まえて）」

開催日：平成 26 年 1 月 29 日 (水)

時 間：14 時 05 分～15 時 20 分（会議全体としては、14 時 00 分～16 時 20 分）

講 師：独立行政法人 国立公文書館 統括公文書専門官室

首席公文書専門官 石井 照夫 氏

参加者：60 名

エ 広報

年報第1号(6月)及び福岡共同公文書館だより第2号(9月)、第3号(12月)、第4号(3月)を発行しました。また、企画展開催の時期には、新聞(西日本新聞)への掲載、地上波放送局(7月RKB「今日感テレビ お知らせ伝言板」・1月FBS「福岡新発見」)、ケーブルテレビへ出演しました。

オ 視察・見学の受入状況(3月31日現在)

区 分	件 数	人 数
視察見学	51	548
県内自治体職員	13	131
県外自治体職員	13	126
議会関係	5	45
教育・学校関係	13	160
その他	7	86

(2-2) 平成26年度 利用促進事業

ア 企画展示の開催状況

区分	期間	テーマ	見学者数
常設展示	平成26年4月1日～平成26年7月16日	公文書にみる福岡140年のあゆみ～福岡県の誕生と市町村合併～	187人
企画展示	平成26年7月23日～平成26年9月28日	公文書でひもとく人々の暮らし残された戦争の記録	1,003人
常設展示	平成26年10月1日～平成27年2月8日	公文書にみる福岡140年のあゆみ～福岡県の誕生と市町村合併～	756人 (12月末)
企画展示	平成27年2月17日～平成27年3月29日	福岡県の災害の記録	—

イ 講演会・講座の開催状況

区分	期日	テーマ	講師	受講者数
講演会	平成26年8月23日(土)	「物言わぬ語り部」～映像が語るあの戦争～	豊の国宇佐市塾 藤原 耕 氏	72人
講座	平成27年1月24日(土)	はじめての公文書館	福岡共同公文書館 副館長 佐藤 史文	16人
講座	平成27年2月14日(土)	大学と「地域」—九州大学の歴史を中心として—	九州大学 大学文書館 教授 折田 悦郎 氏	—
講演会	平成27年2月21日(土)	防災気象情報とその利用	福岡管区气象台 気象防災情報調整官 大場 仁治 氏	—

ウ 研修会の開催状況

市町村文書事務担当課長会議を独立行政法人 国立国文書館と共催で行った。

テーマ：歴史公文書の移管にむけて —国立公文書館の歩みとその取り組み—

開催日：平成27年2月6日(金)

時 間：14時05分～15時15分

講 師：独立行政法人 国立公文書館 統括公文書専門官 大賀 妙子氏

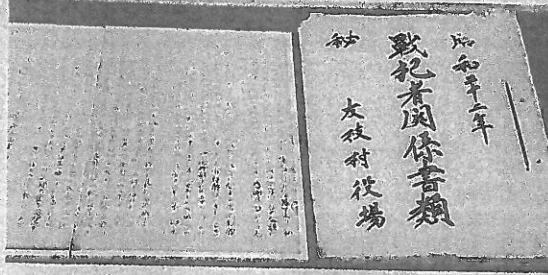
エ 広報

年報と公文書館だより(Vol.5)を発行した。また、企画展の際には、地上波(NHK, KBC等)、ケーブルテレビ(CSF)等を通じ、広報活動を行った。加えて、年度内に公文書館だより(Vol.6)の発行を予定している。

オ 視察・見学の受入状況(12月31日現在)

区 分	件 数	人 数
視察見学	34	251
県内自治体職員	10	75
県外自治体職員	12	91
議会関係	1	10
教育・学校関係	3	6
その他	8	69

巣鴨プリズンの戦犯者からの書状が含まれていた
友枝村の公文書



公文書に見る戦争の記憶

戦後69年。福岡県内の自治体の公文書を通じて戦時中の様相を伝える企画展が同県筑紫野市上古賀の福岡共同公文書館で開かれている。資料約50点が、国民を総動員し多大な犠牲を出した戦争の悲惨さを物語る。同公文書館は、同県と県内58市町村（福岡、北九州両政令市を除く）の公文書や行政資料を収集、保存し

偽装工事の支援陳情書

巣鴨戦犯者からの書状

貴重な資料、再認識を

ている。収蔵文書約3万4千冊の中から、日中戦争から太平洋戦争にかけての関係資料を選んだ。姫治村（現うきは市）の「例規綴（食糧）」は、物資が欠乏するなか導入された切符配給制の実施方法の記録。酒や塩、みそなど食べ物の流通が規制されていたことが分かる。飯塚市の「昭和18年度事蹟」には、

陸軍病院への演芸慰問を申し出た市民団体の文書が収録された。かの戦争が国民総出で支えられたことを示す文書類だ。

大牟田市には、柳川区裁判所大牟田出張所からの陳情書が残っていた。同出張所は1945年6月18日の空襲で建物が一部損傷、2日後に陳情書を出した。次

状況が伝わってくる。戦後の52年、巣鴨プリズンに収容された戦犯者から友枝村（現・上毛町）の村長宛てに届いた書状もあつた。差出人は「在巣鴨福岡県出身者七十五名代表」。同様の書状は各市長に送られたとみられ、戦犯者の釈放嘆願署名運動に対する感謝などが記されている。

「罰せられた行為の殆ど総べてが、当時の軍の絶対命令に基づいて為されたものか、あるいは何人と雖

も為さねばならなかった」。書状には戦犯扱いに戸惑う心境もつづられている。「公文書は歴史の生き証人」という言葉がある。戦争体験者が年々減っていくなか、戦争資料の一つとして、地方自治体の公文書を再認識させられる企画展である。

◆企画展「公文書でひととく人々のくらし 残された戦争の記録」 9月28日まで。観覧無料。福岡共同公文書館 11092(019)6166。

（野村大輔）

福岡共同公文書館第5回企画展

福岡県の 災害の記録



矢部川(柳川市大和町)
『平成24年7月梅雨前線豪雨の災害記録』
(福岡県土整備部)



田代地区(八女市黒木町)
『平成24年7月梅雨前線豪雨の災害記録』
(福岡県土整備部)

**平成27年
2月17日(火)～3月29日(日)**

「災害は忘れたところにやってくる」と言われます。

平成3年の台風17号・19号、平成17年の西方沖地震、そして平成24年の九州北部豪雨等、福岡県に甚大な被害をもたらした災害の記録を集めて紹介します。

過去の災害を振り返り、防災・減災の大切さについて、改めて考えてみませんか。

休館日：月曜日、祝日 観覧無料



『福岡県地域防災計画(基本編)』
(福岡県防災会議、平成11年度)

『災害年報 平成12年』
(福岡県、平成12年度)

【演題】防災気象情報とその利用

講師：福岡管区気象台 気象防災情報調整官 **大場 仁治氏**

■とき／2月21日(土)午後2時から

■ところ／福岡共同公文書館 2階研修室

■定員／80名(事前申込み) ※ 詳しくはお問い合わせください。

講演会の
お知らせ

福岡共同公文書館

福岡県筑紫野市上古賀1丁目3番1号

お問い合わせ

092-919-6166

交通アクセス

- JR「二日市駅」下車、徒歩13分または、西鉄バス「警察署前」バス停より徒歩1分
- 西鉄「二日市駅」下車、西鉄バス「警察署前」バス停より徒歩1分
- 九州自動車道「筑紫野インター」より車で約5分



福岡共同公文書館講演会のご案内

第5回企画展「福岡県の災害の記録」(2月17日(火)～3月29日(日))に併せて、講演会を開催します。

■講演会名

防災気象情報とその利用

内 容

- 気象庁が発表する防災気象情報の種類や利用方法についての説明
- 防災気象情報の技術的基盤と予測精度についての解説
- 情報利用者側とわかりやすい防災気象情報に改善するための質疑応答
- 自然災害から身を守る方法の紹介

■講 師／福岡管区気象台 気象防災情報調整官

おおば にんじ
大場 仁治 氏

■と き／平成27年2月21日(土)

午後 2時から3時30分まで
(受付：午後1時30分から)

■ところ／福岡共同公文書館 2階研修室

■定 員／80名(事前申込み) 参加無料

申込方法

- 電話、FAX、電子メール、郵送、インターネット(ふくおか電子申請サービス)、又は直接公文書館までお越しください。
- FAX、電子メール、郵送で申込みの場合は、下記の必要事項を記載の上、ご提出ください。 ふくおか電子申請サービス

必要事項

- ① 講演会名「防災気象情報とその利用」
- ② 参加者の名前(ふりがな)
- ③ 住所(都道府県、市町村まで)
- ④ 電話番号(あればFAX番号)



申込み・問合せ先

福岡共同公文書館

〒818-0041

福岡県筑紫野市上古賀1丁目3番1号

電話番号 092-919-6166

FAX 092-919-6168

電子メール

kobunsyokan@pref.fukuoka.lg.jp

※休館日：月曜日、祝日

(祝日が月曜日の場合は翌日も休館)

※ご提供いただいた個人情報は、本講演会に関する連絡のみに使用いたします。

福岡共同公文書館講演会「防災気象情報とその利用」 ※この用紙は申込みにご利用いただけます。

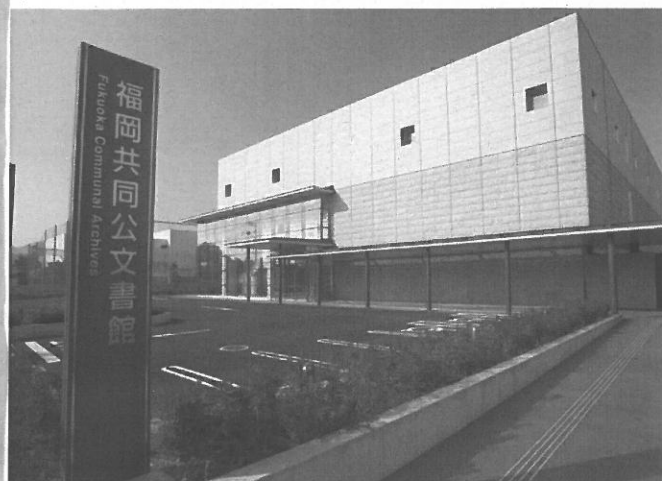
ふりがな		電話番号	
お名前		FAX	
住 所	都・道・府・県 市・町・村		

福岡共同公文書館の設置と活動の現状について

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

全国(福岡)大会自由論題研究会報告

(平成26年11月14日)



福岡共同公文書館
福岡県立公文書館
福岡県市町村公文書館
小原康弘

1

はじめに

平成24年4月1日、公の施設として条例で設置された「福岡共同公文書館」(福岡県立公文書館及び福岡県市町村公文書館を総称したものは、同年11月18日に開館しました。

開館後、ようやく3年目を迎える公文書館ではありますが、県と市町村が共同で設置・運営するという全国初の取組事例の観点から、報告では、共同で設置し、運営するということは具体的にどういうことかを概観します。

主な内容として、当館の設置に至る経緯、共同運営の観点からの特色、今後の方向性、課題などについて触れたいと思います。

2

- I 設置の経緯等
- II 歴史公文書の評価選別
- III 利用制限情報の取扱い
- IV 事例から見る（共同）公文書館設置の意義
- V 課題等

3

I 設置の経緯等

4

共同公文書館の設置目的

県と県内全市町村（政令市を除く）の長期にわたり重要な価値を有する公文書等を住民の共通の財産として継続的に後世へ伝えること。

これら公文書等を体系的に選別・保存し、一般の利用に供するとともに、公文書等の管理・保存・利用に関連する調査研究を行い、行政に活用することにより、効果的な行政運営に寄与すること。

保存

- 文書を選別・収集し、目録を作成し保存する。

利用普及

- 文書を閲覧に供し、利用普及のための展示や講習会を行う。

調査研究

- 選別の方法や文書の補修・保存等について調査研究を行う。

5

共同設置・共同運営の意義と効果

意義

市町村合併に伴う歴史公文書散逸の危惧、単独設置の財政的負担の軽減

→ 県下全ての自治体の公文書が適切な環境で体系的、一元的に保存される。



効果

- ・ 各自治体における適切な文書管理の促進
- ・ 各自治体の諸活動を記録した公文書を体系的に保存
- ・ 各自治体の活動の比較検証が可能
- ・ 地域文化の向上と住民参加による自治の向上

6

福岡県内の自治体公文書館設置率 100%

平成24年11月開館当時

- ・ 都道府県レベルの公文書館

34か所(47都道府県) 設置率 72.3%

- ・ 市区町村レベルの公文書館

29か所(1,742市区町村) 設置率 1.66%

- ・ 福岡共同公文書館を58市町村の公文書館と算定すると、市区町村レベルの設置率は、4.93%
一部事務組合方式による公文書館(名称は様々)の設置の検討

7

II 歴史公文書の評価選別

8

Ⅲ 利用制限情報の取扱い

9

Ⅳ 事例から見る（共同）公文書館 設置の意義

10

公文書館設置の意義の一端を垣間見る事例

概要

- ・ ある研究者が、県内のある自治体に対し、「明治期の職員の履歴を記した文書はないか。」と問合せ
その時の担当者は、「お探しの文書はありません。」と回答
- ・ 共同公文書館開館後、公開された文書目録を見て、かつて探していた文書が綴られているのではないかと思い、利用請求を行った。
そうしたところ、探していた文書にたどり着いた。

11

この事例から何が読み取れるか。

当時の担当者は、八方手を尽くして探したのかも知れないが、

- ★ 100年以上も前の文書のことを言われ、どう探していいのか困惑したのかも知れない。
- ★（目録があったにせよ、なかったにせよ）次の点で正確かつ詳細な認識がなかったのかも知れない。
 - ・ 担当している業務に関し、過去にどのような文書が作成され、それがどこに保存されているのか。
 - ・ 当該文書が明治期のものであることから、対象となる文書が、膨大な簿冊の中のどれに綴られているのか、など。

12

どうして公文書館では、たどり着くことができたのか。

- ・ 文書目録には、「作成年度」、「作成担当課」、「資料名（ファイル名）」に加えて、いくつかの「件名」、当該資料の「概要」も記載し、現用のときの目録よりも若干詳しくなっている。
- ・ インターネットを通じ、利用者がある程度自由に検索できる。
- ・ 公文書館では、他館と同様にレファレンスの担当者を配置し、利用者からの相談に応じている。

公文書館の基本的機能の一つである「利用」に関しては、設置の意義はあったと考えている。

13

複数の自治体で作成された特定歴史公文書を一元的に管理することについて

二つの事例から

事例1 福岡県動物管理センターの設置

事例2 福岡共同公文書館第4回企画展

14

事例 1 福岡県動物管理センターの設置

昭和57年当時の福岡県動物管理センター設置に至る経緯を記した公文書

- ・ 作成元 県：福岡県衛生部公衆衛生課（当時）
市町村：古賀町衛生課（当時）
- ・ 動物等の収集及び保管を県内で一元的に行う施設を建設
- ・ 形態は、施設は県の負担 其の後の運営は、財団法人で
いずれにしても、こういう場合は、地元との調整が必要

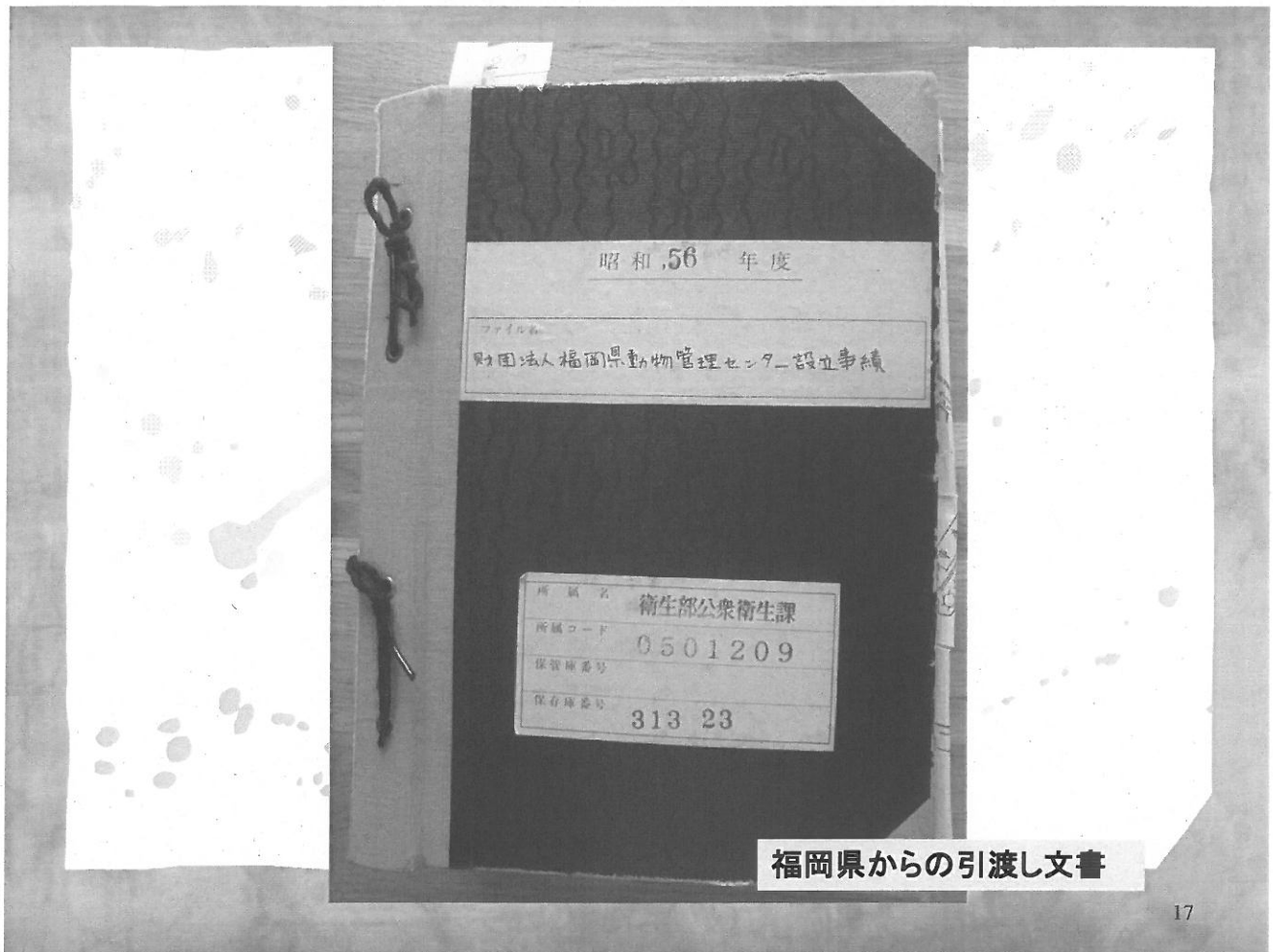
15

- ・ 施設を古賀町（現古賀市）に造るに当たって、福岡県知事、古賀町長、古賀町地元区長の三者で協定を取り交わすこととなった。

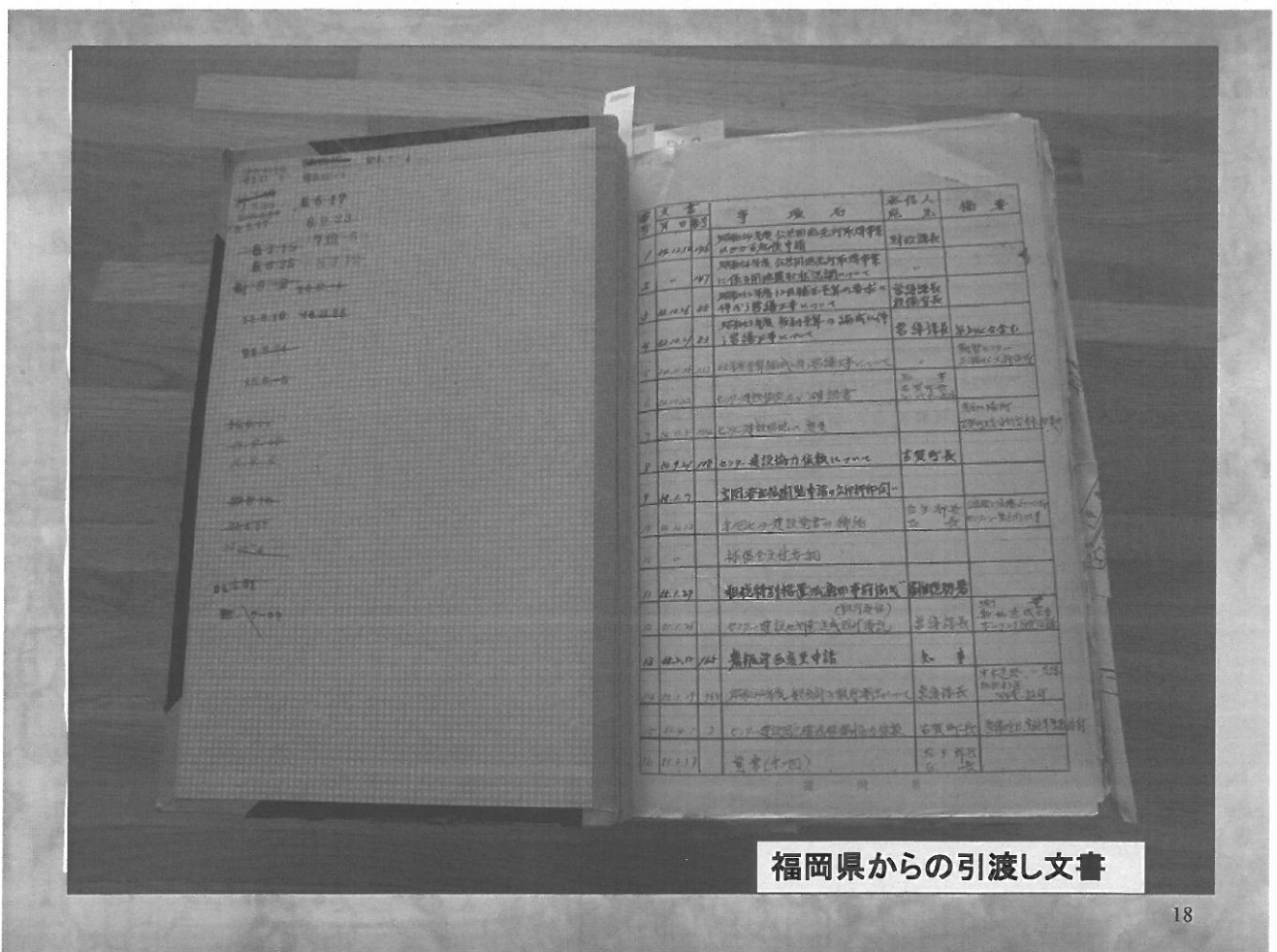
その事跡が、福岡県、古賀市から移管を受けたそれぞれの公文書に残っていたもの。

- ・ 共同公文書設置の効果として狙ったものの一つである、「各自治体の諸活動を記録した公文書を体系的に保存し、各自治体の活動の比較検証が可能」となる事例としての意味を持つ。

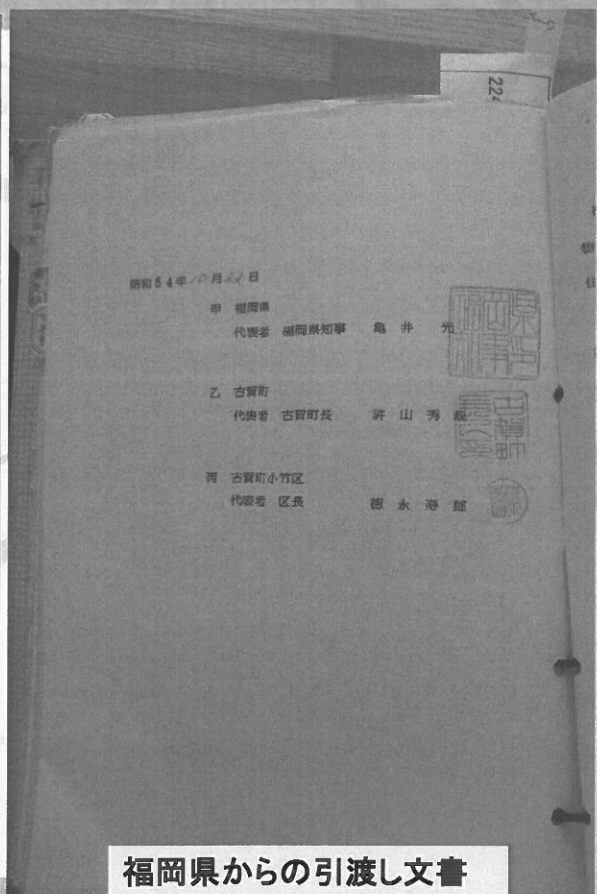
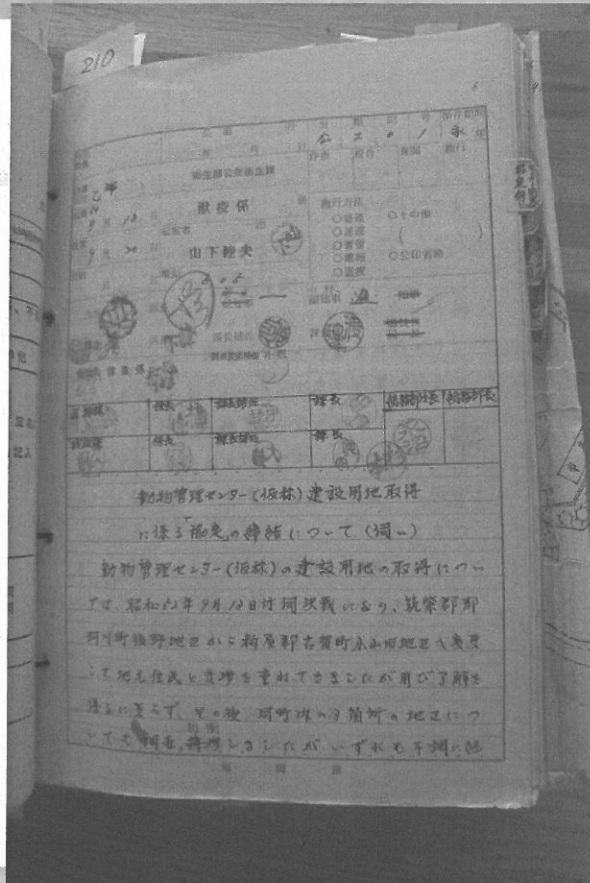
16



17

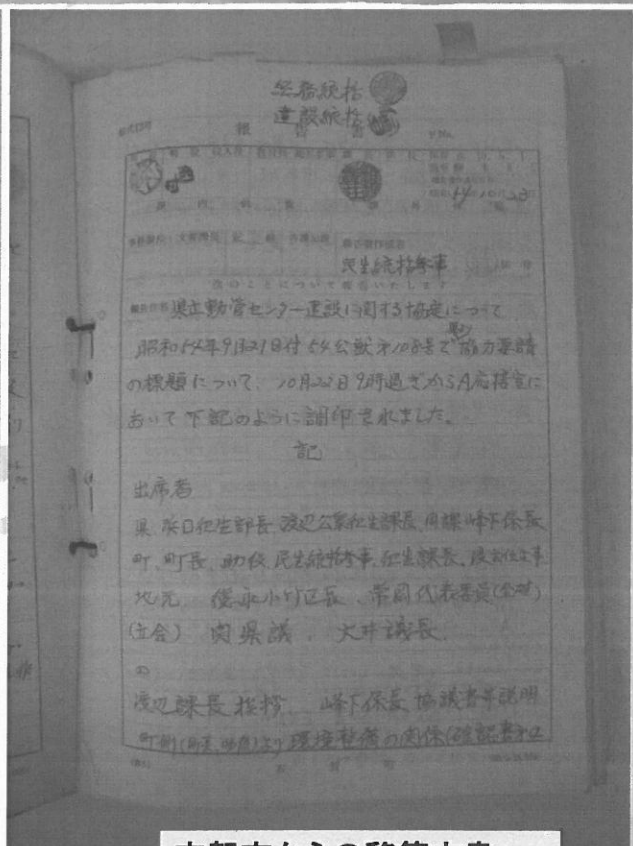
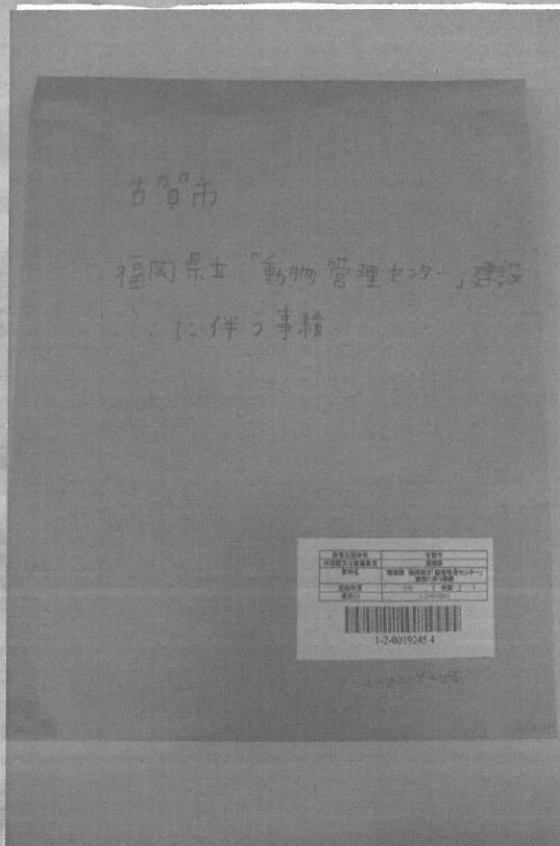


18



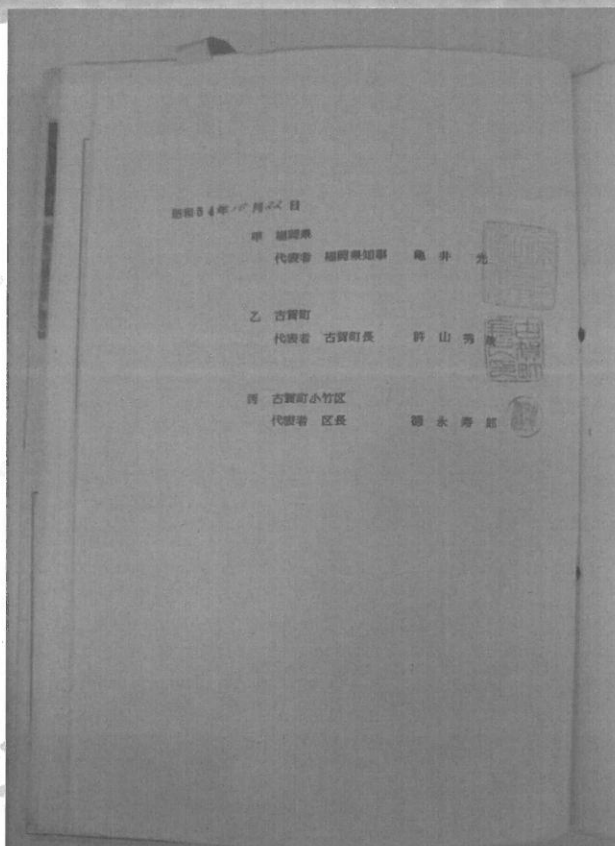
福岡県からの引渡し文書

19



古賀市からの移管文書

20



古賀市からの移管文書

21

事例2 福岡共同公文書館第4回企画展から

福岡共同公文書館 第4回 企画展

昭和二十年度
戦没者恩典申請
兵事課

国民精神総動員中央協議会
結成にあたり

公文書でひもとく人々のくらし
残された戦争の記録

昭和の時代の戦争と人々の暮らしについて、
当時の公文書や写真パネル等により紹介します。
今回は特別に「終戦の詔書」(複製)も展示します。

平成26年
7月23日(水) ▶ 9月28日(日)
9:00~17:00 休館日 月曜日、祝日、8月15日(火) 観覧無料

お問合せ 【会場】「物言わぬ語り部」～戦争が語るあの戦争～
場所: 福岡 桜丘(曾の国手話市庭)
■上場 8月23日(土)午後2時から ■定員 80名
■ところ 福岡共同公文書館 2階研修室 (入館は無料です)

福岡共同公文書館
福岡県糟屋郡宇古町1丁目3番1号
お問い合わせ: 092-919-6166

無料アクセス
〒811-0201 糟屋郡宇古町1丁目3番1号
バス: 西鉄バス糟屋線 宇古駅下車徒歩1分
徒歩: 糟屋郡役所 南側から徒歩5分
駐車場: 糟屋郡役所 南側から徒歩5分

22

○ 福岡共同公文書館第4回企画展 公文書でひもとく人々の暮らし～残された戦争の記録～

○ 趣旨

終戦から約70年、戦争はすでに遠い過去の出来事となりつつある。そこで今回、当館所蔵の公文書の中から、戦争に関する記録や当時の世相を示す資料を集めて展示し、戦争が人々の生活に及ぼす影響や平和の尊さについて考える機会を提供することを目的とする。

同時に、特定歴史的公文書が、地方公共団体の活動を将来にわたって伝える上で欠かせないものであり、地域の歴史を知る上でも重要な手がかりとなることについての理解を広め、利用の普及促進を図る。

○ 期間

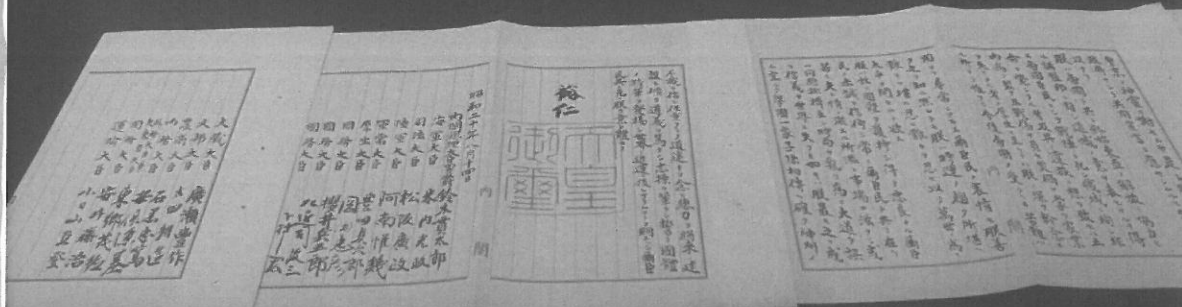
平成26年7月23日（水）から平成26年9月28日（日）

23

第4回企画展展示資料リスト

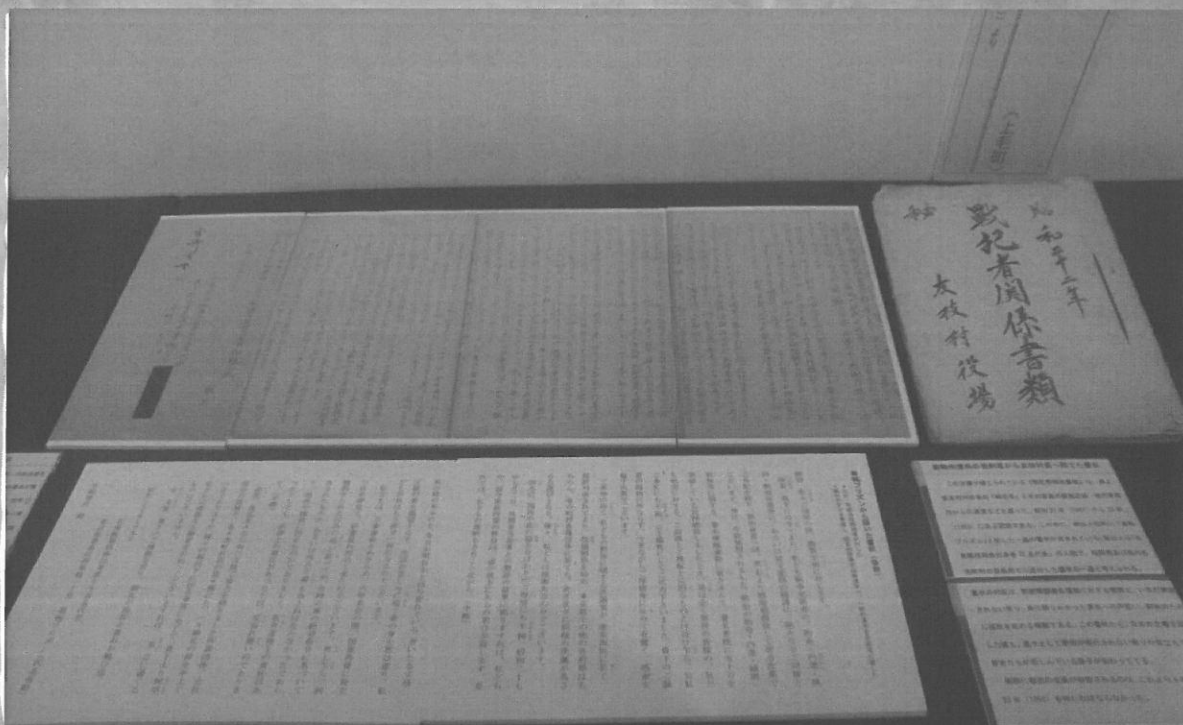
資料名	概要
C-1 飯塚市「昭和7年 市参事会協議録」 (ID 1-2-0014528)	※満朝部隊慰問に関する件 (S12)
C-2 飯塚市「昭和12年市会事蹟」 (ID 1-2-0014525)	※兵事係事務報告書（出動部隊慰問・防空演習参加日時・在満将兵の慰問等）(S12)
C-3 大牟田市「昭和12年玉川村庶務書類」 (ID 1-2-0012557)	※「国民精神総動員中央連盟の結成にあたりて」等の小冊子※愛国婦人会福岡県支部作成の節約を呼びかけるチラシ
C-4 大川市「昭和12～14年木室全村学校事蹟」 (ID 1-2-0002251)	※「五ヶ年計画書」「年間行事予定表」「村民への説明リーフレット」 (全村学校について)
大川市「全村学校事蹟」 (ID 1-2-0002550)	
C-5 みやま市「町村長会事蹟 昭和16年」 (ID 1-2-0019532)	※「陳情に関する件」(S16)⇒農林漁業団体統制要綱への反対
C-6 うきは市「姫治村例規類（食糧）」 (ID 1-2-0010489)	※酒・砂糖・味噌・醤油・塩・乳製品の配給統制に関する例規
C-7 飯塚市「昭和18年度事蹟」 (ID 1-2-0017280)	※久留米陸軍病院宛「演芸慰問に関する件」(S18) ※配給米の節米献納書 (S18)
C-8 大川市「徴兵名簿 大川町役場」 (ID 1-2-0002898)	※昭和18年10月、臨時徴兵検査など（学徒出陣）
C-9 赤村「昭和19年4月7日執行村葬事蹟」 (ID 1-2-0004887)	※村葬執行計画案（日付・場所・英霊・葬儀委員・式次第） ※村葬資料（各方面からの弔辞（主に印刷物））
C-10 飯塚市「昭和20年度戦没者恩典事蹟」 (ID 1-2-0017086)	※「戦没遺児に対する御下賜品伝達参拝行事に関する件依頼通牒」 (S20)
C-11 大牟田市「昭和20年市参事会提出原案類 大牟田 市役所」(ID 1-2-0012631)	※柳川区裁判所大牟田出張所偽装工事施工についての陳情書、戦争災害に係わる追加予算書
C-12 終戦の詔書（複製・守田幸夫氏寄贈分）（県か らの借用）	
C-13 上毛町「昭和22年 戦犯者関係類 友枝村役場」 (ID 1-2-0001588)	※在巢鴨福岡県出身者75名の代表者より、宮崎唯治上毛村長にあてた手紙（巢鴨プリズンと記載されている）
C-14 県立図書館から移管された百道松風園関連資料 (県文書)	※戦災孤児（遺児）への対応など

24



終戦の詔書（複製・守田幸夫氏寄贈分）（県からの借用）

25



「昭和22年 戦犯者関係綴 友枝村役場」上毛町から移管

26



「百道松風園関連資料」福岡県から引渡し

27

「共同」公文書館の意義

企画展で展示したこれらの公文書は、それぞれの移管元自治体で作成又は取得され、保存されていたものが当該自治体の判断（一次選別）を経て移管されたもの。

共同文書館においても、二次選別を実施

「福岡県及び県内市町村における行政の推移等が明らかとなるもの及び住民生活、社会情勢を反映している文書」で重要なものに該当

昭和期の戦争という視点から見たときに、移管元自治体、文書の作成年度、個別の文書の内容は違えども、県内の自治体を横断的に、当時の「住民生活、社会情勢を反映している文書」を見ることができる。

28

V 課題等

移管元自治体からの歴史公文書の移管

条例上の歴史公文書の移管対象機関は、県は知事部局、行政委員会等13機関、市町村は58団体となっています。

しかし、現実に移管を受けている機関の数は平成25年度末現在で、県が13機関中、4機関、市町村が58団体中、56団体となっています。

共同公文書館で、県と58市町村の公文書が一度に閲覧できる意義を体現するためにも、今後とも移管に向けた協議を進めなければならないと考えております。

歴史公文書の評価選別

当館では、先に触れたとおり、歴史公文書の評価選別のうち、一次選別を移管元自治体が行うという基本的考え方をしていますが、一次選別に関する移管元自治体の選別水準の向上にどう取り組むかは、時間のかかる課題です。

移管元自治体に対する歴史公文書の選別支援（目録選別支援、現物選別支援）や歴史公文書の意義・重要性についての職員説明会の開催などを継続して実施し、職員への啓発を進める必要があると思っています。

また、現在選別に用いている評価選別基準については、選別を行う中で、どの基準に当てはめていいのか迷うものもあり、今後、選別事例の蓄積と分析を行う中で、基準の見直しを行う必要があると考えております。

来館者数

来館者数の状況を見ると、平成25年度は、開館日1日当たり（年間開館日数289日）平均10人となっており、共同公文書館が、地域に十分浸透しているとは言い難い状況であると考えております。

（なお、数字の評価については、様々な見方があるのも事実です。）

利用しやすい公文書館を目指して、レファレンスの充実や広報の強化を通じた来館者の増加策などを今後とも実施しなければならないと考えております。

33

最後に

公文書館の共同設置、共同運営の利点は、自治体における財政負担の軽減はもちろんですが、複数自治体の特定歴史公文書の比較・検証が容易になるなど、単独設置にない利用の広がりが期待されるものです。

今回、「事例から見る（共同）公文書館設置の意義」の中で紹介したものに今後の方向性を示す鍵がありそうですが、共同設置、共同運営の意義が評価を得るまでにはまだまだ時間がかかりそうです。

そのためには、我々自身の努力はもちろんのこと、関係者の皆様の御支援が必要ですし、また、県内外の皆様に、広く共同公文書館を知っていただくことも重要だと思っています。

今後とも福岡共同公文書館をよろしくお願いします。

御清聴ありがとうございました。

34

平成 26 年度第 1 回 福岡県特定歴史公文書利用審査会

平成 26 年度第 1 回 福岡県自治振興組合特定歴史公文書利用審査会

日 時 平成 2 7 年 2 月 1 0 日 (火)
1 0 時から

場 所 福岡共同公文書館 2 階会議室

1 開会
館長挨拶

2 会長選出等

互選の結果、新谷恭明委員が会長に選出された。
会長代理には、勢一智子委員が指名された。

新谷会長挨拶

3 議事

① 平成 2 5 年度、平成 2 6 年度事業実績について

事務局から、平成 2 5 年度、平成 2 6 年度事業実績について報告があり、これを承認した（平成 2 6 年度事業については、平成 2 6 年 1 2 月 3 1 日までの内容）。

② その他

事務局から、平成 2 5 年 1 1 月 1 4 日に開催された、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会（福岡市で開催）自由論題研究会における、「福岡共同公文書館の設置と活動の現状について」、報告があり、これを承認した。

4 その他

5 閉会